

# あいつとの闘い

兵庫県

播磨町少年剣道クラブ

小学6年 井上 暁 仁

素振りをしようとするにあいつがじゃまをする。そうじをしようとするともたあいつがじゃまをする。そう、それは、自分の中にいる弱い自分だ。自分の中では堂々としてじゃまをしてくるあいつだ。わかっているけどできない自分なのだ。そんな時、お父さんに「そうじをしなさい。やることしっかりやりなさい！」と言われた。だけど、「何でそうじなん？けい古や素振りやないんか？」と思いながら、家の玄関のそうじをして、素振りは少し控えめにやった。そして、その週末試合があり、みんなで力を合わせて優勝することができた。

新型コロナウイルス感染症対策による緊急事態宣言があり、けい古の日数がへった。当然出げい古もできない。けい古ができないから、自主練をがんばらなくてはならないとわかっているのに、またあいつがじゃまをする。けい古できないことを良いことにさぼろうとするあいつだ。そう、ここでも弱い自分がちらほら登場してしまう。そんな時、お兄ちゃんが、家の駐車場で切り返しとか足運びを意識した打ち込みにつき合ってくれた。だから、けい古が再開した時でも以前と同じように一生懸命けい古をすることができた。お兄ちゃん、ありがとう。

お父さんが、お姉ちゃんの試合や遠征に行ってしまうため家にいない日がけっこうあった。お兄ちゃんは大学生になり家にはもういないから誰にも何も言われないうえに、良いことにさぼろうとするあいつがじゃまをする。そう、ここでもまた弱い自分がちらほら登場してしまう。でも、そんなある日、お姉ちゃんが英語の宿題を教えてくれた。勉強なんてしていないと思っていたお姉ちゃんが教えてくれたから、びっくりだった。そんなお姉ちゃんが、高校の県大会で優勝した。いろんな人が僕に「お姉ちゃんスゲエなあ」と声をかけてくれた。うれしい気持ちとなぜかちょっと悔しい気持ちが混ざって、心の中は複雑だった。この時、以前にお父さんが言っていたことが少し理解できた。「トイレのスリッパ並べもそう、礼儀正しくすごし、家のそうじや人の役に立つことをどんどんしなさい。そうすれば、人の気持ちがわかるようになり、全てはつながっているから、その積み重ねが自分のためになる。いつか必ず勝てる日が来る。」といていた。お兄ちゃんとお姉ちゃんの剣道を通じて学んだことだそう。確かに、お姉ちゃんは、この間の県大会前や試合の前になると家のそうじをはじめ。自分の部屋から家の玄関、トイレや階段などそうじをしていた。家では眠ってばかりのあんなお姉ちゃんが、今では、学校の道場へ朝一番に行き、道場の床の雑巾がけをしているそう。なかなか真似できないことだけど、背も小さくていつも何かと口うるさいけど、良いお手本が目の前にいることに気が付いた。お姉ちゃん、ありがとう。

道場ではキャプテンにはなれなくて悔しかったけど、それも弱い自分のせいだ。今の自分にできることを少しでも多くやりたい。トイレのスリッパ並べの本当の意味がわかり、今の自分が少しわかった今では、自分のやる気スイッチを自分で入れることができる気がする。

僕には大きな夢がある。そう思うとその大きな夢を現実化するには、今のままでは全然ダメだ。必死で努力しないと佐賀の剣友に負けてしまう。そう、大人の全国大会の決勝戦で戦う約束をしているその剣友も自分のやる気スイッチのひとつなのだ。そんなやる気スイッチに気づかせてくれた家族にありがとう。そんな家族にしてくれた剣道にありがとう。いつの間にか始めていた剣道にありがとう。

そして、今日も一生懸命がんばります！